

## 他力の反省

どこから手をつけていいかわからない、そんな思いがあります。いろいろな宗教に首を突っ込んできたけれど根っこはひとつなんだと思います。小さいときから、母親に連れられて神社周りをしました。でも幼心にこんなに信心深くて偉いだろうと自慢する心がありました。神に私は守られている特別な存在なんだという思いがありました。神殿の奥に目を凝らし、いったいこの中にはどんな神が存在しているのだろうと思いました。母に連れられて町の拝みやにもいきました。中学高校大学時代は、神を求める動機は良い学校へ、良い就職、良い結婚で、私の求めたものは名誉地位金力権力でした。肉中心の幸せを求めて、すごいエネルギーで念じ続けました。ある拝みやであんたは観音の生まれ変わり、人を救うために出てきたと言われ、その気になり、己偉し、尊しの思いを膨らませる結果となりました。そのため人の持たない力を欲しい、特別の力が欲しいという思いが強くありました。靈的な世界に詳しくなりたい、そんな力を利用したいという心が強くなってきました。結婚してからは、肉の上の調和を求めて、A会に入会しました。現世利益を求めた宗教と変わらず、あまりに早い朝起きと本の頒布についていけず、先輩もうるさく、反発心も出て窮屈でやめました。

その後精神世界の本、Gさんの本を読んでいるうちに、職場でYさんと知り合い、Tさんの本を勧められました。靈道ということにとても興味を持ち、自分もこんな靈道を欲しいと思うようになりました。自分の守護靈指導靈は何だろう、自分はいったいどんな魂なんだろうと、自分の偉しさ、すばらしさを証明してくれるようなものを求めました。Tさんの存命中に会いたかったという思いも出ました。私を証してくれただろうという思いもありました。私が求めたものは偉大な靈的な能力で、それを持つことにより人の上に立ち人を従えていくということでした。そんなときにAさんのご縁で田池先生に出会わせていただきました。心の中でTさんと比較していました。この人はいったいどんな能力があるのだろう、私の持っているであろう能力を発掘してくれるだろうか、認めてくれるだろう

かという思いがありました。田池留吉の下で学んでいながら、心は完全にTさんの支配下にありました。今まで私は本で読んだだけで、G教団をやっていた人ほど、影響は受けていないとかをくくっていましたが、とんでもありませんでした。Tさんの支配下にあるときにSさんと職場で出会ったのです。お互いに同じような精神世界の本を読んでいることから、話が始まり、田池先生の下でやっている学び、Tさんの本などを勧めました。勉強会にも誘いましたがすぐには、未だ時期が早いからとかですぐには来ませんでした。出会った当時から、変な靈道は開いていたようで、不思議なことばかり言う人という印象がありました。私の靈的世界を知りたいという知識欲を満たす恰好な相手だったんです。彼女は当時、自分は皆の靈道を開かせるお手伝いをし、自分が田池先生に靈道を開きそうな人を伝えているということまで言っていましたが、それでもおかしいとは思わず、逆にそんなに偉い人なのかと思ってしまい、そんな偉い人にあやかりたいという気持ちを持ってしました。そのとき私の心にあったのは靈道を開きたい、誰も持っていないような靈道を開きたいという想いでした。そしてその力で皆の注目を集め、支持されたいという想いでした。

神の本質を知らず、ただ興味本位に靈の世界を神の世界と錯覚している自分がありました。摩訶不思議な力、人の心を見通す力、奇跡を起こす力、パワーを求める心でした。今学んでいることからは真っ向から刃向う心でした。神とは力、人を屈服させる力を感じていました。彼女が伝えたのは序列の世界、上下の世界で私が求めていたのは、ピラミッドの頂点に立つことでした。人には負けたくない、遅れをとりたくないという心いっぱい、Sさんに取り入り、彼女の力で何とか上にのしあがっていこうとした私があります。だから彼女の言うことを聞きました。人を集めて会合をするというときにはこれと思う人に声をかけました。あなたのほうが古いから人を知っているでしょうと言われ、思いつくまま、人の名をつらねました。自分自身がまるで偉くなったかのような錯覚をし、呼んでやるという心で人に誘いをかけました。闇の手先で人の心を田池留吉から引き離し、神から遠ざけようとする心でした。

私の心の中に田池留吉を道標と思う心がありませんでした。Tさんの世界に引きずられたまま、Sさんを上に置き、その能力にあやかりたいという思いいっぱいでした。はっきりとした言葉、わかりやすい知識、自分を認めさせる場、そんなのを求めていた私でした。この学びとは180度反対の心を使い続けながら、自分は間違っていたということをはっきりと認識しないまま、セミナーだけには参加し続けていた、愚か者です。何度も先生に注意されても、何もわからないときだったのだからと自分を正当化し、今自分の心がどこを向いているのか、確認することも怠り、私はやっていると傲慢な心を使い続けていました。Aさんと同通し、もっと大きな闇のエネルギーに支配されていたことを失念していました。反対の方向を向いたままの、私の14年間でした。その間、田池留吉に使い続けた心の根源、原点があそこにあったと今思えます。数々の心を使い続けてきました。無礼な態度もとってきました。信じない思いをいっぱい出し、何かというと、すぐ反発し、こんな学びもうついていけないと、やめたい思いを出し続けていたことも、何が根底にあったのか今だから見えてきたような気がします。

心の中から、やっと少しずつですが、間違っていましたという思いと、許され続けていたという思いが出てきました。田池留吉を信じていこうという思い、この道しかやはりなかったんだという思いが出てきています。

本当に申し訳ありません。じっくり心を見ていきます。

## 他力の反省 2

Sさんと何度も電話などで話しているとき、寒気がしたり、頭痛がするようになっていましたが、それが何なのか欲に目がくらんで知ろうとしませんでした。どうやったら靈道が早く開けるのか、何でもわかるようになるのか、そのことばかりに気を取られていました。Sさんに誉められる、位の高い魂と言われる人は妬ましく、菩薩どまりとか黒い小さな羽根がついていると言われた私はいつも悔

しい思いをしましたが、それでも離れることができませんでした。心の中で何と偉そうな人かと憎みながらも、利用できる人という思いがあったんです。当時、天使の名が横行し、自分は何なんだろう、すばらしいものであれば嬉しい、誰よりもすばらしいものでありたいという思いがありました。そのころ、たくさんの靈道者がいて、それをあの人、この人は真っ暗だと断言したSさんに対して、そうだそうだと同調する思いがありました。人を引き摺り下ろしたいと思いました。そのときピラミッドの上部にいた人を追い落としていく想いでした。当時人から頼りにされ、一目置かれていた人達を切り、裁いていくエネルギー、和ではなく、破壊、争いのエネルギーを膨らませていったのです。確かな波動もわからないまま、Sさんの言葉を鵜呑みにし、それをあたかも真実のように伝えていった私でした。田池先生に対しては、はっきりしたことを言わない、頼りない人という想いを抱えたままでした。ただ、それでも田池先生を裏切っているという想いはなく、先生の学びをそばからサポートしてくれる人という認識でSさんに向かい合っていたような気がします。でも意識の世界は違いました。Tさん、バフラマー、宇宙の闇に支配され身動きの取れない状態でした。がんじがらめでした。今なおそんな状態なんだと感じます。

Sさんから光の流れが変わりましたと聞いたとき、肯定も否定もできない私がありました。光の流れについては白から赤、緑、黄色などということは聞いていましたが、理解のできない状況というかアアそうですかと聞いておくしかない状態でした。今思えばなぜあのとき気付けなかったのかということがたくさんありますが、無知とエゴの塊、愚かそのものでした。知識を重要視し、知識をたくさんくれる人についていたいという想いがありました。私の中にSさんは今までの靈道者と違い、教養、社会的立場もあり、しっかりとした人なんだという想いがあったような気がします。ただのおばさんではない、あんたらとは違うと自分を重ねて思っていた部分があったように思います。人を見下げ、差別し、私達のような立場の者こそ活躍すべきという想いを抱えていました。Sさんを持ち上げる私の心は、今に私も、こんな風になってやる、人の注目を集め、認

められ、私の存在を知らしめてやるという想いでした。先に学んでいた私よりも、Sさんが注目され、初回の宿泊セミナーにも呼ばれていたということが、とても悔しく、負けたという想いが、絶対Sさんよりすばらしい靈道者になって、田池留吉を見返してやるという想いにつながっていきました。人に負けたくない、一番でありますといふ想いはそれから先ずっと使い続けた心です。

長い間、少しも心を見ていませんでした。

人と比較する心、自分が優位に立ちたい心、一番になりたい心、そのためには何でもするという肉を基準にした心が今なお存在します。当時友達と言えどもすべてが競争相手でした。誰が早く靈道を開き、先生に認められるか、そんな競争を心の中で繰り返していました。その為にもSさんは私にとって離したくない相手でした。チャネラーに対する認識が今とはまったく違い、己を表せる存在、己を一段高く置く存在が靈道でした。間違った心ばかり使い続け、それでも自分は間違っていないと強情を張ってきたのです。

神を知らない欲に突っ張った心が彼女を求め、結果的に彼女をチャホヤすることによって、彼女を追い詰めてしまった、そんな間違いもありました。彼女の指導を受けたいという人がいて、いつの間にか教祖的な要素を色濃くしていきました。本当は自分で独り占めしておきたかったのに、皆で神に反抗していく道筋をつけてしまった私は。そこにはやはり彼女にあやかって私もという想いがありました。

### 他力の反省 3

私の一番の間違いは神の本質を知らなかったことです。欲の心で神を求め、肉の幸せを求めて、神を求めていました。神は自分に幸せを保証してくれるもの、すべての災難、病気、事故から自分を守り助けてくれるものという認識しかありませんでした。神は力があるもの、超能力を持つものという認識でした。ですから超能力を持つ人、人の持たない能力を持つ人にあこがれました。本で出会った

Tさんはそれを満たしていました。何でもわかり見透し、すばらしい守護、指導霊を持つ画期的な人という印象を受けました。病気も治し、高級霊とも対話でき、過去から未来までわかるということにひかれました。そんな力を自分も持ちたいと思ったのです。

田池先生に初めて出会ったとき、なんて平凡なただの普通の人ではないか、見えない聞こえないというから何の超能力もないんだと、最初から見くびる心がありました。元校長先生か何か知らないけど大丈夫かいな、何か頼りない、期待はずれではないかという思いがありました。求めているものがまったく違っていました。先生から聞く話は、単なるお話、私はもっと違うものを探しているんだという思いがありました。Mさんの家でエルランティ田池誕生というチャネリングに出くわしましたが、何でこの人がエルランティなのという思いもありました。エルランティならエルランティらしい能力をあらわして欲しい、すべての力を見せて欲しいという想いでした。出発点が、基本がもう狂っていたんです。

そんな想いがあったので、田池留吉を心から信じてついていくということができませんでした。もっとすばらしい能力を持つ人はいないだろうかという迷いがあったのかもしれません。そんなときにSさんに出会い、両方から吸収できるものを吸収しようという欲の心がありました。他力の心そのものでした。この学びへの最初の動機はまったくの他力の心でした。

今神の本質を教えていただき、真実への道筋を示していただきながら、右往左往している原因が学びの出発点にあったことを知ることができました。田池留吉に出してきた思いをしっかり見つめて反省していきます。